

令和7年度地震・津波防災訓練 (和歌山県印南町・内閣府)

実施報告書 (概要版)

和歌山県印南町について

- 和歌山県印南町は、紀伊半島西部海岸の中央部に位置し、人口は令和8年1月時点で7,461人。南西部が太平洋に面する山地・丘陵地・台地、北東部が紀伊山地西端の山地からなる。北東の山地ほど標高が高く、南西部ほど標高が低くなり、切目川、印南川、王子川によって開析されている。
- 海側は黒潮の影響で温暖な気候となっており、鯉節発祥の地として知られるほか、スイカやエンドウ豆の栽培が盛んである。
- 平成29年に町役場庁舎を高台に移設するなど、防災対策を強化している。



主な被害想定

- 南海トラフ地震が発生した場合時にはM9.1、最大震度6強、最大15mの津波の到達により、1,200名の死亡が予測されており、「東海・東南海・南海3連動地震」が発生した場合は最大震度7となることが想定されている。
- 地震・津波の他、台風常襲・多雨地域であり、過去に多くの風水害も発生している。



訓練概要

■訓練想定：「南海トラフ巨大地震」が発生し、震度6強以上の揺れと、最大高15mの津波による被害を想定。

■実施日時：【防災講演会】 令和7年9月4日(木) 19:00～21:00
 【訓練実施前WS】
 沿岸部(印南地区) 令和7年10月9日(木) 19:00～20:30
 沿岸部(切目地区) 令和7年10月14日(火) 19:00～20:30
 山間部 令和7年10月16日(木) 19:00～20:30
 中学生向け 令和7年10月21日(火) 13:30～15:00
 【地震・津波防災訓練】 令和7年11月1日(土) 7:30～13:00
 【訓練実施後WS】
 沿岸部(切目地区) 令和8年2月17日(火) 19:00～20:30
 沿岸部(印南地区) 令和8年2月18日(水) 19:00～20:30

■主催：印南町

■アドバイザー：和歌山工業高等専門学校環境都市工学科 小池信昭教授

■参加者数：500名

■参加機関：地域住民(沿岸部・山間部)、地元小中学生、自主防災会、防災士の会、消防団、社会福祉協議会、民生児童員、日赤奉仕団、日高広域消防事務組合、御坊警察署、陸上自衛隊、和歌山県防災航空センター、日本栄養士会災害派遣チーム(JDA-DAT)、関西大学城下ゼミ、印南町教育委員会、印南町、和歌山県

■訓練項目：シェイクアウト訓練、地震・津波避難訓練、職員参集訓練・通信訓練、自主防災訓練、避難所運営訓練、災害初動期対応訓練、展示ブース説明、防災へり救助訓練

■訓練の特色：訓練前に防災講演会を実施し、地元の住民向けに改めて防災の啓発を行ったほか、沿岸部と山間部に分け、それぞれの想定される被害に応じたワークショップを複数回実施した。
 訓練は「地震・津波避難訓練」、「避難所運営訓練・初動期対応訓練」、「防災体験学習」の3部構成とし、各地区で避難訓練・避難所運営訓練の後、主会場にて体験学習を実施した。

訓練の成果

【成果】

- 町内の小・中学生の参加を呼び掛けて大規模に実施したため、町内全体として防災意識の向上につながった。
 防災体験学習において、警察や消防の協力を得て車両を展示するなど、家族連れでも参加しやすい体験内容を多く準備したため、若年層を含む多くの地域住民の参加につながった。

【課題】

- 学生以外の地域住民の訓練参加が一定程度にとどまったため、参加者の裾野を広げる工夫を検討する必要がある。

10月 訓練実施前ワークショップ

- ・ 印南地区・切目地区（沿岸地区）向けの訓練前ワークショップでは津波に対する研修、山間地区向けには土砂災害についての研修、中学生向けには講話と避難行動についての研修を実施した。
- ・ 避難行動が遅れてしまう要因について考える機会となったといった意見が挙がった。

▼グループワーク



▼グループごとに気づきを共有



11月1日(土) 7:30～13:00 地震・津波防災訓練

- ・ 3部構成で訓練を実施した。

- ・ 第1部の地震・津波避難訓練では、サイレン放送・エリアメール受信後、各避難場所に避難した。
- ・ 第2部の避難所運営訓練、初動期対応訓練では、段ボールベッド、かまどベンチの組み立てを実施した。
- ・ 第3部の防災体験学習では、燻煙体験や自走式水洗トイレカー見学を実施した。

▼子連れで防災センターに避難する参加者



▼かまどベンチの組み立て



▼家庭での防災対策を紹介する展示パネル



▼本部にて避難状況を把握する町役場職員



▼小学生向け講義



▼燻煙体験



2月 訓練実施後ワークショップ

- ・ 切目地区向けの訓練後ワークショップでは、避難所の環境改善のために、地区内外から調達できるもの、現段階で役場と連携をとること、役場に要望しておくべきことについて意見交換をした。

- ・ 印南地区向けの訓練後ワークショップでは、家族の無事を知らせる「黄色の旗」の使用目的と経緯を確認した。

▼印南地区の訓練後ワークショップ



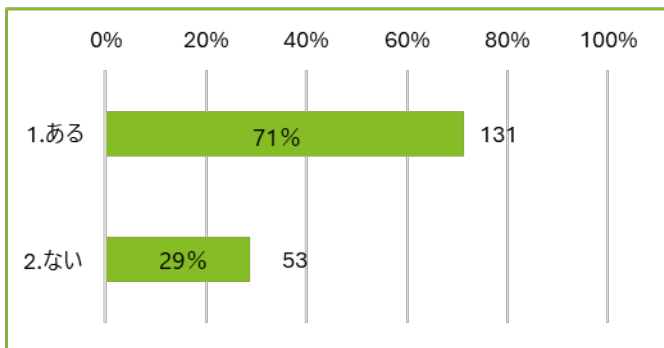
▼切目地区の訓練後ワークショップ



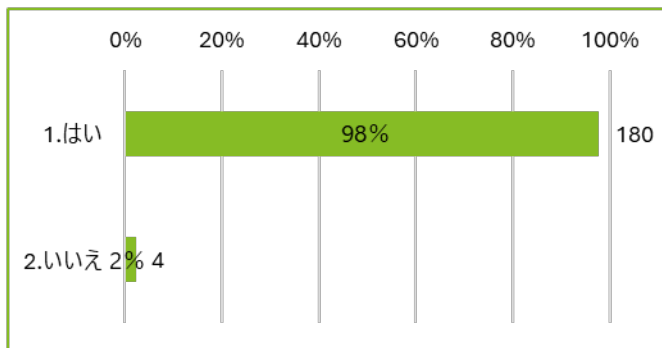
アンケート結果

回答数：184

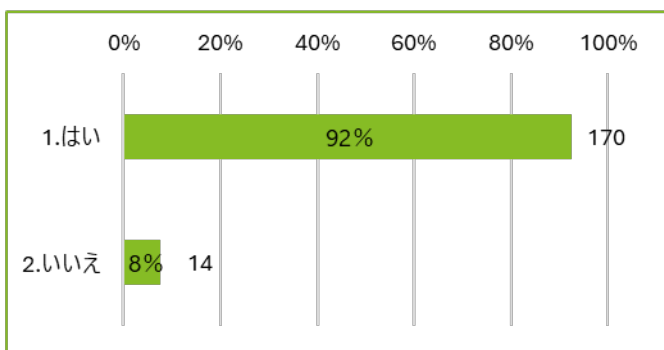
1. 過去に防災に関する講話・ワークショップなどに参加したことはありますか。



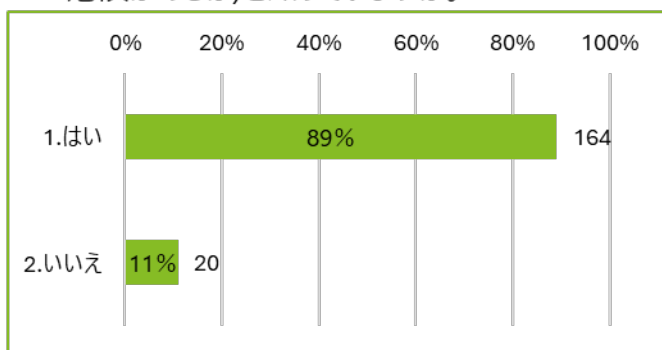
2. 今回の講話会を通して、災害に対する備えを改善しようと思いましたか。



3. 印南町のハザードマップを見たことはありますか。



4. お住まいの地域の災害リスク(どこに、どのような危険があるか)を知っていますか。



5. 11月1日(土)実施予定の避難訓練に参加しようと思いますか。

